

# ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



## Viva!! “コーギダイ”

ある日の会議でのこと、先生方が急に、「コーギダイはいつから?」「年中さんもコーギダイが使えないかしら?」「コーギダイ」「コーギダイ」と連発して話をはじめました。

「?」「講義台」ではなさそう・・・。この年になって、職員室で意味不明な言葉を耳にしようとは・・・。

しばし、会話に耳を傾け、次のような「コーギダイ」なるモノの実体を思い浮かべました。

- ①大きな物体のようなモノで、しかも外で使うモノ
  - ②子どもが使うもので、しかも子どもが夢中になるもの
  - ③とっておきの教材で、みだりに使わせられないもの
- そこまで想像して諦め、恥ずかしがらずに尋ねました。「すみません。コーギダイって何ですか?」

優しい M 先生は丁寧に説明してくれ、「コーギダイ」が「巧技台」であることが判明しましたが、やはり胸のつかえは取れず・・・、私が心底スッキリしたのはそれから何週間か経ってからの事でした。

「園長先生! 巧技台出しますよ。」と M 先生。園庭に飛び出した私は「うわ～、これか!」と思わず叫びました。正に「百聞は一見に如かず」です。「巧技台」は、可動組み立て式遊具のようなものであり、5歳児であれば数人で分解して運んだり自由に組み立てたりでき、その組み立て方のバリエーションは無限にあるかと思える、実に優れた教具でした。これがあれば、言葉は掛けずとも、子どもたちは自ら「主体的・対話的・深い学び」を始めるのではないだろうか? そんな想像が広がる胸躍る「モノ」でした。

早速、巧技台を使っでの設定保育が始まりました。どうやって組み立てればいいのか、そして、ケガをしないための注意点などを与えられると、子どもたちは一斉に飛びつ

きました。「もっとこうしたい!」が溢れ出てきます。人間関係を学ぶいさかきも頻発します。もし、「年下の子を楽しませたい」という思いが揃えば、それは、もう小学校の「課題解決学習」ではありませんか!!

**恐るべし! コーギダイ!  
素晴らしき哉! 巧技台!**



とっても楽しかったよ!  
(上)かわいいセイウチさんとコミュニケーション!  
(下)海は、マジカルワールド!



行ってきました!

うみたまご

別れのルーティン

その男の子は、毎朝、お父さんと手をつないで登園してくる。幼稚園の門のところまでくると、決まってパツとつかないだ手を放し、向きを変えてお父さんにしがみつく。すると、お父さんも上半身をかがめ、ぎゅっと両手に力を入れる。そう、ほんの2、3秒・・・。そして、男の子はまたくるりと向き直り、園舎の方へ駆け出していく。その姿はあっけないほどに潔い。後姿を見届けるお父さん。お父さんもまた、別れの余韻を断ち切るかのように、少し足早に帰っていきのだった。

毎朝繰り返される、二人のルーティン。きつと今だけの、別れのルーティン。

